

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：国際協力カレッジ～国際協力を学び、行動する
きっかけつかもう！～（形態：ワークショップ）
2. 実施者：門田一美（特活）名古屋NGOセンター
3. 日 時：2015年12月12日（土）
（14時00分～16時30分）
4. 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば（名古屋市中村区）
5. 参加者：70名
6. 実施報告：

国際協力分野でボランティアやインターンをしたい人、そして、ボランティアやインターンを募集中の国際協力団体とのマッチングを行う「ボランティア・インターン マッチング展」への相談ブース出展を行った。2分間の「NGO 相談員アピールタイム」が設けられており、来場者に相談員制度のアピールを行った。その後、相談対応のフリータイムが設けられ、以下の通り相談に対応した。主な相談内容は以下のとおり。

- ・春休みに行けるボランティアを探しているので、教えてほしい。
- ・短期間で行ける海外ボランティアはあるか。どんな国に行くこ

とができるのか。

- ・ インターンとボランティアの違いは何か。
- ・ 外務省のインタープログラムについて詳しく教えほしい。自分もチャレンジ可能か。
- ・ 現在教員として働いているが、国際協力の仕事に転職を検討。待遇面や就業環境等について実態を教えほしい。
- ・ 現在高校 3 年生だが、将来国際協力に携わりたいと考えている。今できることは何か。
- ・ 大学生で、今後フランスに留学して、将来国際協力に携わりたいと考えている。今、地元にいながら何か準備できることは何かを考えている。

〈所感及び効果〉

本イベントは、JICA 中部主催、当団体共催による企画で、毎年 100 名近くが参加し、好評を得ている。実際に、昨年度の参加者が今年には出展 NGO のスタッフ側となって活躍する等、目に見える成果が出ている。NGO 相談員として心がけていることは、参加者の中でどのブースに行ったらいいか迷っている方、総合的な視点でブースを見た

い方などが気軽に立ち寄れるようにすることである。

そのため、今回は、ブースの展示物を工夫し、多く寄せられる代表的な相談例を大きくプリントして貼り出し、気軽に相談して頂けるようにした。結果的に、相談員ブースは列が出来るほど盛況となり、終了時刻すぎまで様々な相談が寄せられた。

ブースでは、他に「青年海外協力隊」、「JICA 国際協力人材部」等が出展していたが、将来国際協力分野で仕事をしたい高校生、教員だが転職を考えているといった方が NGO 相談員ブースを訪れた。具体的なスキルや経験がない場合も、NGO でボランティアをしながら経験を積むことができるということをお伝えし、JICA だけでは対応しきれない相談ニーズに対応することができたことが成果である。



アピールタイムで NGO 相談員の紹介を行う



ブースにて相談対応を行う



イベント「マッチング展」全体の様子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：国際協力をするということーアジアの村々から学ぶ
(形態：講演)
2. 実施者：今里拓哉 ((公財)PHD協会職員)
3. 日 時：2015年12月17日 (木)
(11時50分～12時40分)
4. 場 所：兵庫県立鳴尾高等学校 (兵庫県西宮市)
5. 参加者：生徒120名
6. 実施報告：

「国際協力をするということーアジアの村々から学ぶ」というテーマで兵庫県立鳴尾高等学校からの依頼を受け、出張サービスを行った。対象者は国際文化情報学科の生徒120人。

まず「国際協力」に対するイメージを数人の生徒に聞いてみた。返ってきた答えは「貧しい国への食糧支援」や「ボランティア」など。そこで食糧支援の例として国連 WFP の活動についてや、当会がネパール大地震の直後に実施した食糧支援の様子を説明した。また海外ボランティアの一例として青年海外協力隊について説明した。最後に「日本で行う国際協力」の一例として PHD 協会の活動を紹介

した。国際協力には様々な形があり、また多くのアクターが関わっていることを伝えた。

次に「アジアの村々から学ぶ」ということで、当会インドネシア人研修生シャフルルとネパール人研修生カンチを通じて生徒たちに村の様子や課題、その課題に対する取り組みなどについて伝えた。二人は来日して8カ月にして日本語での日常会話は出来るが、一人でスピーチすることは困難。そこで今里が二人に質問を投げかけて二人に答えてもらい、更にその答えを生徒たちが理解しやすいよう今里が補足説明するような形で講義を進めた。多くの課題を抱えながらも、インドネシアとネパールの村人と外部者である NGO による取組が村を少しずつ改善する、草の根レベルの国際協力活動の理解につなげることができた。またカンチが先生を務める学校の校舎が日本の ODA によるものであることから、日本政府の支援についても触れた。

最後にシャフルルとカンチに日本の印象を訪ねた。来日当初は日本の便利さに驚いたが、少しずつ日本の課題にも気づいたことを紹介。「人間関係の希薄さ」「農業従事者の高齢」「地方の過疎」「貧富の拡大」など。アジアの村人を通して日本の在り方についても考え

る国際交流の場も設けることができた。



「国際協力をするということーアジアの村々から学ぶ」①

NGO 相談員制度についての説明をしている様子



「国際協力をするということーアジアの村々から学ぶ」②

日本の ODA について説明している様子

講演後、生徒たちからの感想：

- ・ 「今回の講演会で知らなかったことをたくさん学ぶ事ができた」
- ・ 「将来は青年海外協力隊に参加して国際貢献をしたい」
- ・ 「こちらから現地に行くだけが支援ではなく、現地の人を招いて技術を学んでもらうことが支援になることを知った」
- ・ 「2人の研修生から見た日本の課題（ホームレスの問題など）に考えさせられた」

以上